

私は、旧修善寺町に生まれ、大学進学と共に修善寺町を離れ、50年余東京都と埼玉県で過ごしました。そして、昨年11月に伊豆市に戻ってきました。ここで生涯を終えるつもりでいます。

広報や友人の話から、伊豆市は人口減少が進んでいることを知りました。なぜ人口減少が激しいのか、原因は伊豆市に魅力がないからだと思います。同じ静岡県東部で、長泉町は人口が増えています。それは長泉町に魅力があるからです。

長泉町と伊豆市は地理的にも財政的にも大きな違いがあつて、長泉町と同じ取り組みはできません。伊豆市は伊豆市としての取り組みがあります。それは、どこでもやっているような取り組みではだめです。思い切った取り組みが必要です。

伊豆市のHPを見ると、伊豆市は市への移住を促進しています。しかし、伊豆市からの転出を減らし伊豆市への移住人口を増やすには、魅力的な伊豆市を創造することが必要です。私は、伊豆市を住みやすい魅力的な街にするために、いくつかの思い切った提案をしたいと思います。

1. お年寄りにも優しい公共交通機関の充実

伊豆市に戻ってまず感じたことが、路線バスなどの安くて手軽に利用できる公共交通機関が極端に少なくなっていることでした。

私のいたころは、ほとんどの地域で、少なくとも朝夕それぞれ2便ずつ、そして昼に1便のバスの運行がありました。今は朝と夕方の1便ずつあれば良い方で、全くバスの通わない地域も増えているようです。1世帯に1台以上の自家用車が普及したためバスの利用者が減り、運行本数の減少ないしは運行廃止となったためと思います。

ここで不便を感じるのは高齢者です。高齢者以外の家族がいる場合は、誰かが自家用車を運転して買い物や通院ができますが、一人暮らしのお年寄り、あるいは高齢のため免許証を返納した身寄りのない老夫婦は生活の場を失うことになります。

なぜ路線バスが停滞するのか、一番大きな理由は自家用車が増えていることで

す。そして、どこの家庭でも自家用車に頼る生活があたりまえになってしまったことです。路線バスを復活させるためには、自家用車を減らし、自家用車の利用を減らすことです。そのための思い切った施策が必要です。

「バスをもっと利用してください」と呼びかけても、利用しやすい環境が整備されていなければ、路線バスは衰退の一途をたどることになります。路線バスを利用する方が得策なんだという意識の変革が必要です。

1.1 路線バス充実のための施策

バスを利用しやすい環境整備の第一は、現在よりもはるかに強力な路線バスの充実です。

修善寺地区の新中学校開校に伴うスクールバスの計画はありますが、新中学校完成までは時間があります。それまでの間の通学バスの確保、また修善寺地区以外の通学バスも含めて、高齢者が気軽に利用できる路線バスの充実をお願いします。東海バス、伊豆箱根バスの協力をお願いして、主要地域の少なくとも朝・昼・夕1便ずつの路線バスの運行をお願いします。

1.2 コミュニティーバス・オンデマンドバスの創設

しかし、路線バス運行ルートには限界があるでしょう。路線バスの運行できない地域を縫って、コミュニティーバス、オンデマンドバスあるいはオンデマンドタクシーの整備をお願いします。

私が埼玉県にいた時は、ほとんどの都市にコミュニティーバスがありました。市で小型バスを購入して、市の職員、あるいはバス会社に委託して、路線バスの通らない市内を巡回していました。コミュニティーバスは時間に制約があります。その制約を解決するものとして、安い料金で乗れるオンデマンドバスあるいはオンデマンドタクシーの制度がありました。

路線バスの運行していないルートには、コミュニティーバスあるいはオンデマンドバス、オンデマンドタクシーの制度をぜひ導入していただきたい。

1.3 このための費用の一部の負担をマイカー利用者をお願い

路線バス充実のためのバス会社への補助金、オンデマンドタクシーへの補助金、コミュニティーバスの購入・運営のための費用の一部を、現在の自動車税とは別に、マイカー利用者に負担していただくというのはいかがでしょう。法律のことはわかりませんが、公共交通の充実を目的とした条例を定めてはいかがでしょう。

例えば、市内に自家用車が 50 万台あると仮定して、1 台当たり年間 1 万円を負担していただくと、50 億円となります。これを路線バスに協力してくれるバス会社への補助金の一部にあてます。コミュニティーバスの購入と運行のための人件費の一部にあてます。オンデマンドタクシーの補助金の一部にあてます。マイカー利用者に負担してもらうことで自家用車を減らし、これがバス利用者の増加にもつながります。

高齢ドライバーの運転免許証の返納も進むでしょう。高齢ドライバーの事故も減らせます。高齢者をかかえた家庭では、通院・介護施設への高齢者の送り迎えが減り、時間の有効活用ができます。学童の送り迎えも減ります。マイカー所有者にとっても利益が多いと思います。

伊豆市ではすでに、「伊豆市生活ネットワーク形成計画」が始まっており、2025 年の完成を目指しています。9 年計画の半ばにさしかかっていますが、改革の実態をまだ見たことがありません。

それは、この計画には抽象的な表現が多いため、実際の施策に移しにくいからだと思います。このままでは、ほとんど進展のないまま 2025 年を何となく迎えそうな気がしてなりません。また、目標値が低く、恩恵を得られるのはごく一部の人に限られます。この計画に抜本的な見直しが必要と考えます。

2. 伊豆市の総合病院の充実

伊豆市には総合病院といえる病院がありません。一応伊豆赤十字病院が総合病院となりますが、診療科目も少なく休診の日が多いようです。医師数も看護師数も極端に少ないようで、総合病院と言うにはほど遠いと思います。日赤を利用せず、順天堂病院や三島・沼津の総合病院に行く人が多いのではないのでしょうか。充実した総合病院が存在することは市の魅力の一つでもあります。

しかし、新しい総合病院を建設あるいは誘致するよりも、せつかく赤十字病院

があるのですから、これを補助して充実した総合病院に発展させていけるのではないのでしょうか。私のいた埼玉県には、深谷赤十字病院というりっぱな総合病院がありました。地域の拠点病院として充実した医療体制を整えていました。他にも多くの大学病院がありました。ぜひ、伊豆赤十字病院をりっぱな総合病院に育てて、伊豆市の拠点総合病院にさせていただきたいと思います。

3. 文化施設の充実を

私が伊豆市に移転してきたとき友人から耳にしたことは、「伊豆市は教育レベルが低い」ということでした。なぜ教育レベルが低いのでしょうか。学校教育の問題でしょうか。学校教育は、学校の先生方が努力していらっしゃるはずです。全国一律の学校教育が行われているので、レベルに違いはないはずですが、違いがあるとしたら文化的環境ではないかと思います。

そのように考えますと、伊豆市には文化施設があまり見当たりません。りっぱな文化施設が充実していることも、街の魅力の一つと思います。

3.1 豊かな市となるために企業誘致を

長泉町は小さな町でありながら、長泉町文化センターがあり、その中にベルフォーレというりっぱなホールがあります。ここでは、さまざまなコンサートやイベントが行われています。長泉町は、日本一住みやすい街とも言われているようです。大都市からアクセスしやすいこともあり、中学生までの医療費が無料、妊婦健診が12回分無料などありますが、このようなりっぱな文化施設があることも魅力です。

なぜこれができるのか、それは長泉町に大企業の工場、研究所などが多く、企業からの税収が大きいからです。そして魅力が増すことで移住者が増え、住民税収入の増加もあるでしょう。

りっぱな文化施設等魅力ある伊豆市にするために、財政基盤をしっかりとする必要があります。そのための企業誘致が必要と考えます。

3.2 伊豆市の特色を生かした企業誘致を

しかし長泉町の真似をしてもだめです。伊豆市ならではの企業誘致が必要です。それには、工場などのハード面を必要とするものはやめて、ソフト面で勝負すべきです。長泉町は JR に近い、東名高速に近いなどの地の利を生かして工場誘致を成功させています。しかし、伊豆市は交通基盤は弱いです。

そこでたとえば、IT 企業の誘致、大企業の一部本社部門の受け入れなどはいかがでしょうか。これからは IT を活用した企業の分散化が進むでしょう。大都市に本社を集中する時代は終わりました。

そこで伊豆市の魅力となるのが市内にたくさんある温泉地です。独身社員の社員寮には温泉を導入します。家族で移住する社員は、休日を温泉でリフレッシュできます。このような魅力をピーアールして企業誘致をしたらいかがでしょう。

3.3 そのために IT 基盤の整備が必要

そのために最優先で取り組むべきなのが IT インフラ整備です。

残念ながら私の住む熊坂は IT インフラが極めて弱いようです。ネットがなかなかつながりません。光ファイバーも半年以上もかかっているのにまだ開通していません。業者の説明によると、住居の横に 2 m ほどの堀があり、NTT がこれを通すための申請に時間がかかっているとのこと。50 m の川でも 2 m 程度の川でも同じ申請が必要だとわけのわからないことを言っています。もしこれが本当なら、とんでもないことです。

この規制は国の問題で、自治体では解決できないかと思います。しかし、IT インフラ整備のために国に働きかけるなどの措置をしないと、伊豆市の IT インフラ整備は進みません。

これからの主流となる 5G のエリアからも外れています。

工事を行うのは、NTT、KDDI など通信事業者です。しかし、自治体から働きかけて積極的に IT インフラ整備をする意志を示せば答えてもらえるのでしょうか。

4. 魅力のある市内の環境整備

魅力ある街は、緑が多く市内が整然としています。まだ修善寺地区だけしか見ていませんが、残念ながら伊豆市に魅力ある景観の道路や市街が見当たりません。

まず伊豆市の玄関口である修善寺駅前の開発が最優先課題でしょう。現在のよ
うな寂れた景観では移住したいという人はいないでしょう。りっぱな商業施設
を呼び込んで、すっきりした景観に生まれ変わらせれば、バスで買い物に来る
人も増えて、バスの利用者も増えます。アピタなどの車を使わなければ行くの
に不便な場所は、自家用車を持たない高齢者には行けません。

さらに、道路わきの街路樹の整備などをしてすっきりした景観にすることで、
伊豆市の魅力度はアップするでしょう。残念ながら、今まで見た修善寺地区の
道路は狭い所が多く殺伐としています。移住者を呼び込むためには、街の景観
も重要と考えます。

5. 住民に負担の少ない生活環境を

伊豆市に戻ってきて一番驚いたことは「ごみ当番」の制度があることでした。
今まで住んできた都市や近隣の都市でこのような制度のあるところはありません
でした。ごみ当番のやっているようなことは業者に委託していました。「新ご
み処理施設」を建設中とのことですが、基本的なごみ出しルールは変わらない
とのこと。ごみ当番」制度も変わらないでしょう。

私は今月ごみ当番となりました。1か月間気が抜けません。私は一人暮らしです
から、病気やけがで入院することもできません。ストレスの続く毎日です。私
個人の問題かもしれませんが、私としてはごみ当番は負担です。

移住者を増やしたり、企業誘致で家族移住を進めようという時に、ごみ当番制
度はいかがなものでしょう。もしかして移住者が逃げていってしまうかもしれ
ません。

業者に委託することで経費もかかりますが、住民に負担のかかる制度は廃止す
べきと考えます。

結論

伊豆市は移住者・定住者の増加促進をしています。伊豆市が移住者・定住者を増やしたいなら、補助金などの移住者支援制度を作っただけ待っているだけではだめです。伊豆市に魅力を感じなければ誰も注目してくれません。長泉町が日本一の住みやすい街になったのは、まず魅力的な住環境を整えて、SNS や口コミ、そして Web での積極的な発信があったからです。

まず、伊豆市民にとって魅力のある住環境を整えて積極的に発信していかなければいけません。そのためには、魅力的な伊豆市を作る思い切った施策が必要と考えます。

萩島敬三